

リーディングスキルを意識した手だて

リーディングスキルを意識した6分野ごとの手だての例

- (1) 係り受け解析
① 音読を行う ② 「何が何をどうした」関係を確認させる
- (2) 照応解決
① 音読を行う ② 指示語が何を指しているか下線を引かせる
- (3) 同義文判定
① キーワード以外の言葉も意識させる ② 別な言い方で言わせる
- (4) 推論
① キーワード以外の言葉も意識させる ② どんなことがわかるか書かせる
- (5) イメージ同定
① 音読を行う ② 文章を図・表・グラフ等で表現させる
- (6) 具体例同定
① 定義文を正確に理解させる ② 言葉の意味を調べさせる

リーディングスキルを意識した授業の手だての例

- 〈授業全体〉全教員が全教科で継続的に実践することで習慣化したい
- 親密度の低い語句をピックアップし、意味を確認する。
 - 音読を行う。
 - 教科書を正しく読むための方略（下線を引く、線で結ぶ、加筆する など）を明示的に指導する。有効性を理解させ、継続的に指導し、習慣化させる。

- 〈導入〉「何を学習するのか」「何ができればよいか」を明確にするために
生徒が主体的かつ意欲的に学習を進めていくことができるかはここで決まる
- 学習課題を視写させる際は、まず口頭で伝えてから板書し、教師と共に書き終わるようにさせる。「聴写」「共書き」
 - 学習課題から授業で何を学習すればよいかを問う。
 - 【①～⑥全視点】問題文（課題）を正しく読めているか確かめる。

- 〈展開〉理解を深めるために
生徒のリーディングスキルの実態と授業のねらい・課題をもとに、1～2項目に絞って取り組む
- 【①係り受け解析の視点】主語⇔述語、修飾語⇔被修飾語、目的語などを問う。
 - 【②照応解決の視点】指示代名詞（それ、これ等）が示す言葉、省略された主語や目的語を明確にする。
 - 【③同義文判定の視点】2文（考え）が同義か異義かを判断させたり、言い換えをさせる。
 - 【④推論の視点】根拠に基づき考えを发表或し、グラフや表等から事実を読み解いたりする活動をする。
 - 【⑤イメージ同定の視点】文章で書かれていることを絵や図等で表現する活動を取り入れる。
 - 【⑥具体例同定（辞書）の視点】理解が曖昧な言葉は、教科書や辞書等を使って調べる。
 - 【⑥具体例同定（理数）の視点】定義文（例「～は・・・である」）等は全員で復唱する。

- 〈終末〉「何を学習したか」を明確にするために
単なる授業の感想で終わらないように繰り返し指導する
- 【①～⑥全視点】視点を示して振り返る場面をつくる。
 - 【⑥具体例同定の視点】新しく学んだ用語を使って、文章を書く場面をつくる。